

研究用試薬

Colon Cancer Cocktail 抗体

(コロンキャンサー カクテル)

包装 : 希釈抗体 1本 7.0mL

Code : CKT-23001

Lot :

Exp : 2024/

製造販売元

株式会社パソロジー研究所

〒930-0871

富山県富山市下野 16 番地

新産業支援センター305号室

TEL:076-411-8088

FAX:076-444-0017

2023/11

1. 内容

希釈済みColon Cancer Cocktail (CDX2+CK20) 抗体 7.0mL (1本)

Colon Cancer Cocktail 抗体は CDX2 と CK20 の感度および特異性を組み合わせたマウスモノクローナル抗体とラビットモノクローナル抗体の混合抗体です。

2. 使用目的

大腸癌はがん罹患数で男女ともに上位を占め、臓器別の死亡者数でも上位に入ります。近年、治療法の進歩から生存率の改善が見られる一方で転移再発する機会も多くあります。原発がんか大腸癌の転移かの診断は治療方針の決定に重要です。

由来臓器の鑑別にいずれも細胞質が陽性となる Cytokeratin7/20 の組み合わせがしばしば使われます。大腸直腸癌、胃癌、十二指腸癌は CK7(-)CK20(+)となり、膵癌、胆道癌、尿路上皮癌、卵巢粘液癌は CK7(+)-CK20(+)となります。Cytokeratin20 陽性のがんは広く消化器癌に見られるため、大腸癌の転移を確定するには大腸粘膜細胞の核に陽性となる CDX2 が多用されます。

CDX2 タンパク質は、原発性および転移性の大腸がん、胃の腸管形質転換体、腸管型胃がんなどで発現しており、腸に分化した腫瘍の比較的特異的なマーカーです。ただし肺の原発性大細胞癌および腺癌、卵巢粘液癌でも見られますので注意が必要です。

Colon Cancer Cocktail は 1 回の染色で原発不明癌や転移・再発が疑われる病変の原発巣推定の診断補助として有用です。

3. Colon Cancer Cocktail を使用した染色方法(例)

1. 脱パラフィン操作

2. 加熱による抗原賦活法

予めウォーターバスで 95 度に加温した抗原賦活液 (1mM EDTA 溶液 pH8.0 - 10.0) に、脱パラフィンした標本を浸して、40 分間処理

ウォーターバスから標本の入った容器を室温で放熱(20 分間)

3. 流水にて軽くすすぎ、蒸留水で水洗

4. 洗浄バッファーに標本を浸す. (5 分間)

操作(4)以降は、内因性ペルオキシダーゼ処理をしてから、 Colon Cancer Cocktail 抗体をそのまま滴下して室温で 30 分間反応させます。 Colon Cancer Cocktail 抗体反応の後は、マウスイムノグロブリンとウサギイムノグロブリンの両者に反応するポリマー試薬、もしくは ABC/LsAB 試薬によって検出を行います。 ABC/LsAB 試薬による検出の際には、予め内因性ビオチンをブロックしてから陽性・陰性反応の検出を実施して下さい。

自動染色機で初めて染色する場合は、まずはデフォルトの設定で試染色を実施し、賦活時間や一次抗体の反応時間を適宜調整ください。

4. 染色例

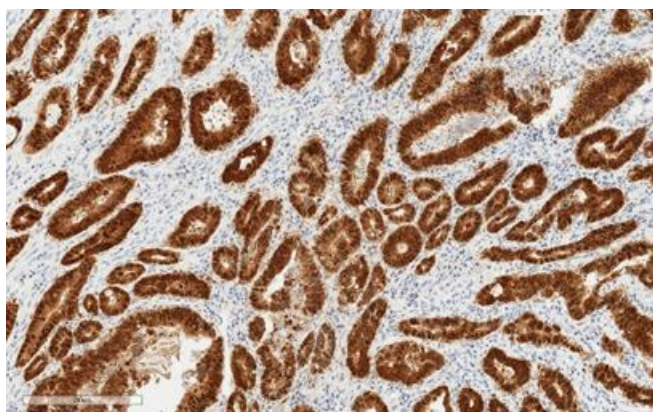


Figure1: Colon Cancer Cocktail で染色した FFPE ヒト大腸癌組織

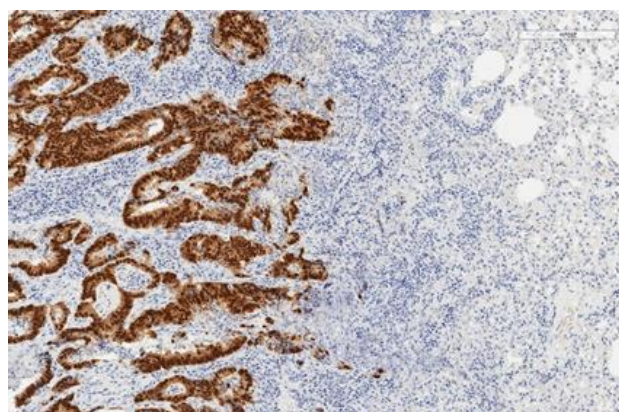


Figure2: Colon Cancer Cocktail で染色した FFPE ヒト大腸癌の肺転移組織

5. 貯法

冷蔵: 2~8°Cで保存ください。

6. 参考文献

1. Mazziotta RM, et al. CDX2 Immunostaining as a Gastrointestinal Marker Expression in Lung Carcinomas Is a Potential Pitfall. *App Immunohistochem Mol Morphol*. 2005;Mar;13(1):55-60
2. Kaimaktchiev V, et al. The homeobox intestinal differentiation factor CDX2 is selectively expressed in gastrointestinal adenocarcinomas. *Mod Pathol*. 2004;Nov;17(11):1392-9
3. Moll, R., et al. Cytokeratin 20 in human carcinomas. A new histodiagnostic marker detected by monoclonal antibodies. *Am J Pathol*. 1992 Feb;140(2):427-47.
4. Perry A, et al. Metastatic adenocarcinoma to the brain: an immunohistochemical approach. *Hum Pathol* 1997;Aug;28(8):938-43.
5. 原発不明がん診療ガイドライン改訂第 2 版. 22-24